



Be creative !

女子サッカー部一部昇格決定!!

“負け知らず” 一年間を走り抜ける!!



今月号は女子サッカー部の活躍に焦点をあてます。3年生もまもなく、引退。その後を引き受ける2年生の坂野天音さん、松本優奈さん、山田万結さんの3人にインタビューをしました。

この一年間の躍進を彼女たちがどのようにとらえているのか、私自身も注目をしてきただけに、大変楽しい充実したひとときを一緒に過ごすことができました。修学旅行前の貴重な時間を活用してのインタビューでした。彼女たちの声をお聞きください。

後半戦をどう乗り切るのか、私たちの転機はここにあった

「実績を積んできた3年生に加え、経験者の多い1年生が入部してくれてきたことは、今年度の女子サッカー部にとっては大きな財産だった」と彼女たちは語ります。この一年の前半戦、勝利が続く試合の中で、勝つことの面白さ、勝つことから得られる自信が自分たちの中に湧いてくることを実感しながらの試合が続きました。ところが後半戦、前半戦のような試合ができなくなります。相手が自分たちの戦いを分析し、戦術を変えて挑んできたからです。「ここから、スカウティングと相手のチームの分析をみんなで頻繁にするようになりました。」よく話し合うようになったと彼女たちは語ります。修正する力もついてきたとのこと。「意見を言い合えば対立することもあるよね。」との問いかけに、「その時大事にしたのは『意図を伝える』こと」と彼女たちは答えます。なぜ、ここで自分がこの意見を言うのか、なぜこの指摘をするのか、その意図をメンバーに粘り強く伝えることに心を注いだ彼女たち。次の課題に向けて頑張っていこうという気持ちを生み出すことができたと言います。

I部に昇格！厳しい戦いが待っている



次年度よりI部への昇格が決まった女子サッカー部。「単純にうれしい。負けが続いたとしてもあきらめたくない。啓成高校がI部にはいる。選手権で負けた相手なので、ぜひ次年度のリーグ戦でリベンジを、と思っている。」と山田さん。「3年生がいたから勝てたと言われることはいやだ。3年生がいなくても勝てる、自分たちの強さを証明したい。」と坂野さん。「辛いことや、難しいこと、課題が増えると思うが、互いに意見を出し合って、結果がだ

めだったとしても、何がだめだったのかを見つめることのできる力をつけたい。」と松本さんは語ります。「このチームならできる！」という自信を持つために、彼女たちからこれからも日々頑張るという固い決意がにじみます。

地域から応援されるチームになろう！

今、女子サッカー部が力を入れて取り組んでいる取り組みが地域ボランティア活動です。低学年の子どもたちにサッカーの楽しさを教えようと、様々な取り組みやチームの指導にボランティアとして参加をしています。毎週続くリーグ戦に加えてのボランティア活動。「大変だよな。」と投げかけると、「疲れたなあと思うこともあるけど、子どもたちが楽しんでいる姿はかわいいし、子どもたちができるようになると、私たちもうれしくなる。」

「私も小さいときに日福のサッカー部の人たちが指導してくれて、すごく楽しみだった。」「教える相手が小さいので、どう話したらわかるだろうかと言葉選びに苦労する。」「途中でぐずっちゃう子がいたり、ボールが当たって泣いちゃう子もいたりするけど、かわいいんでOKです。」自分たちの後に続く子どもたちの成長を見守る彼女たちの視線はとてもやさしい。人を教える中で、最も勉強する人は教える人自身だ。この忙しさの中で取り組んでいる活動は皆さんの人間としての糧になります。やっただけのことは自分に絶対に返ってくる。頑張ろう！



私たちのレベルアップを支えてくれるもの—BAND



一旦試合が始まれば、自分たちの頭で試合の展開を考えていくのがサッカー。瞬時の判断が求められる。「どうしたらこういう力を養うことができるの？」の問いかけに、即座に彼女らは「練習しかない」と答えました。試合の中でできなかったことを出し、それができるようになるまで練習を積むと言う。「顧問の高橋先生が『BAND』というアプリを作ってくれて、ここに今日の試合でよかったことや悪かったこと、できなかったことを入力して先生に相談するんです。」する

と、先生がそれを読み、生徒の要望に合ったメニューを作成してくれるとのこと。それを練習し、試合で試す。「高橋先生は自分たち一人ひとりを見てくれている。多分、女サカのこと誰よりも大好きなんだと思っている。」良き師、良き友との出会いの中で、彼女たちが大きく羽ばたこうとしている姿は何とも健気だと思う。



残るは2節—岡崎商業高校と聖カピタニオ

残る試合はあと2つ。3年生と、共に戦える残り少ない試合だ。「永遠のライバル」とも呼ぶべき、聖カピとの試合も控えている。「聖カピの何が強いのか？」と聞くと「斜めからのクロス」と即答する彼ら。「パスサッカーがうまいんです。パスを出して、その出した生徒が走り出す、その速さがすごい。」「連携力が高いんですよ。」学ぶところが本当にたくさんあるね。練習した成果をどう出すか、鍵はそこにありそうだ。3年生が引退して迎える新人戦は9人で戦うことになるとのこと。自分たちの真価が問われる新しいステージへと向かう女子サッカー部。持前の明るさとエネルギーで常に前進していこう。学校中が、そして地域のみなさんが、君たちに続くちびこたちが応援していますよ！

顧問 高橋駿介先生からのメッセージ「仲間のために本気で働く」チームになろう！



創設4年目となる今年は、「変化の年」となりました。総体県ベスト8進出を逃す悔しい経験をした選手たちはチームの合言葉を「一本勝負」と決め、日々、悔いの残らない練習をひたすらに続けました。それに加え、週末の試合、遠征、地域貢献活動などを経て、大きく成長していきました。今もまさに大きな変化の中にあります。「仲間のために、本気で働くこと」で、互いの良さを引き出し、さらなる成長と、結果に繋げるために、精進し続けます。(高橋先生、メッセージをありがとうございます)

「2つのおめでとう！」を紹介します。

★第21回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト(日本福祉大学×朝日新聞)入賞

学校全体で取り組んできた上記コンテストに今年度も以下の3名の生徒の皆さんが入賞するとともに、学校としても「優秀学校賞」を3年連続で受賞しました。全校生徒の皆さんの真摯な思いが表彰されたと受けとめています。

入賞者 第2分野(スポーツ・文化活動を通して一わたくしが大切にしていること一)

佳作 3年生 花井遥さん「いちばん輝く夏に」

第3分野(わたしが考えているこれからの社会一全ての人々が幸せであるために一)

佳作 3年生 永田優杏さん「出会いの中で」 2年生 川上柚奈さん「しあわせのかたち」

この結果は、12月21日以降、第21回高校生福祉文化賞エッセイコンテストのホームページ内で発表があるとともに、「朝日新聞 EduA」HPにも掲載されます。



★2024年度総文祭全国大会出場決定

和太鼓部・吹奏楽部！

和太鼓部は期末試験真最中の11月23日、吹奏楽部は2年生の修学旅行直前の12月9日にそれぞれ全国総文祭への出場をかけた県大会が開催され、みごと、次年度の愛知県代表校として選出をされました。来年度は岐阜県にて全国大会は開催されます。これまでは、総文祭と言えば和太鼓部でしたが、そこに吹奏楽部も加わるようになってきたのは何ともうれしいことです。頑張れ。応援に行きます。彼らは、12月24日(日)、知多市勤労文化会館つつじホールにて X'mas Joint Concert を開催します。入場無料、13:30 開場、14:00開演です。X'mas コレクションはもちろん、せっかくの和太鼓部と吹奏楽部のジョイントですので、日本民謡メドレーがコンサートのラストを飾ります。ともに全国大会に挑む部活が力を合わせます。お楽しみに。



今月の言葉

「あなたにとってサッカーとは？」の問いかけに



山田さん 「生きがいです」(きりっとした表情できっぱりと彼女は言いました。)

坂野さん 「自分自身を高めてくれるもの。辛いことも自分たちで解決をしよう、自分自身を強くしてくれるもの。」

松本さん 「あきらめない心を育ててくれるもの。コミュニケーション力や協調する力を自分にくれるもの」